

## 主日礼拝説教「あなたのために隠された宝」予稿

日本基督教団石神井教会 2017年9月10日

### 【旧約聖書日課】列王記上 3章4～15節

<sup>4</sup>王はいけにえをささげるためにギブオンへ行った。そこに重要な聖なる高台があったからである。ソロモンはその祭壇に一千頭もの焼き尽くす献げ物をささげた。<sup>5</sup>その夜、主はギブオンでソロモンの夢枕に立ち、「何事でも願うがよい。あなたに与えよう」と言われた。<sup>6</sup>ソロモンは答えた。「あなたの僕、わたしの父ダビデは忠実に、憐れみ深く正しい心をもって御前を歩んだので、あなたは父に豊かな慈しみをお示しになりました。またあなたはその豊かな慈しみを絶やすことなくお示しになって、今日、その王座につく子を父に与えられました。<sup>7</sup>わが神、主よ、あなたは父ダビデに代わる王として、この僕をお立てになりました。しかし、わたしは取るに足らない若者で、どのようにふるまうべきかを知りません。<sup>8</sup>僕はあなたのお選びになった民の中にいますが、その民は多く、数えることも調べることもできないほどです。<sup>9</sup>どうか、あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与えください。そうでなければ、この数多いあなたの民を裁くことが、誰にできましょう。」

<sup>10</sup>主はソロモンのこの願いをお喜びになった。<sup>11</sup>神はこう言われた。「あなたは自分のために長寿を求めず、富を求めず、また敵の命も求めることなく、訴えを正しく聞き分ける知恵を求めた。<sup>12</sup>見よ、わたしはあなたの言葉に従って、今あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える。あなたの先にも後にもあなたに並ぶ者はいない。<sup>13</sup>わたしはまた、あなたの求めなかったもの、富と栄光も与える。生涯にわたってあなたと肩を並べうる王は一人もいない。<sup>14</sup>もしあなたが父ダビデの歩んだように、わたしの掟と戒めを守って、わたしの道を歩むなら、あなたに長寿をも恵もう。」

<sup>15</sup>ソロモンは目を覚まして、それが夢だと知った。ソロモンはエルサレムに帰り、主の契約の箱の前に立って、焼き尽くす献げ物と和解の献げ物をささげ、家臣のすべてを招いて宴を張った。

### 【使徒書日課】コリントの信徒への手紙一 15章35～52節

<sup>35</sup>しかし、死者はどんなふうに復活するのか、どんな体で来るのか、と聞く者がいるかもしれませんが。<sup>36</sup>愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ命を得ないではありませんか。<sup>37</sup>あなたが蒔くものは、後でできる体ではなく、麦であれ他の穀物であれ、ただの種粒です。<sup>38</sup>神は、御心のままに、それに体を与え、一つ一つの種にそれぞれ体をお与えになります。<sup>39</sup>どの肉も同じ肉だというわけではなく、人間の肉、獣の肉、鳥の肉、魚の肉と、それぞれ違います。<sup>40</sup>また、天上の体と地上の体があります。しかし、天上の体の輝きと地上の体の輝きとは異なっています。<sup>41</sup>太陽の輝き、月の輝き、星の輝きがあって、それぞれ違いますし、星と星との間の輝きにも違いがあります。

<sup>42</sup>死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、<sup>43</sup>蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。<sup>44</sup>つまり、自然の命の体が蒔かれて、霊の体が復活するのです。自然の命の体があるのですから、霊の体もあるわけです。<sup>45</sup>「最初の人アダムは命のある生き物となった」と書いてありますが、最後のアダムは命を与える霊となったのです。<sup>46</sup>最初に霊の体があったのではありません。自然の命の体があり、次いで霊の体があるのです。<sup>47</sup>最初の人は土ででき、地に属する者であり、第二の人は天に属する者です。<sup>48</sup>土からできた者たちはすべて、土からできたその人に等しく、天に属する者たちはすべて、天に属するその人に等しいのです。<sup>49</sup>わたしたちは、土からできたその人の似姿となっているように、天に属するその人の似姿にもなるのです。

<sup>50</sup>兄弟たち、わたしはこう言いたいのです。肉と血は神の国を受け継ぐことはできず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはできません。<sup>51</sup>わたしはあなたがたに神祕を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。<sup>52</sup>最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。

## 【福音書日課】 マタイによる福音書 13章44～52節

44「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。

45また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。46高価な真珠の一つを見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。

47また、天の国は次のようにたとえられる。網が湖に投げ降ろされ、いろいろな魚を集める。48網がいっぱいになると、人々は岸に引き上げ、座って、良いものは器に入れ、悪いものは投げ捨てる。49世の終わりにもそうなる。天使たちが来て、正しい人々の中にいる悪い者どもをより分け、50燃え盛る炉の中に投げ込むのである。悪い者どもは、そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。」

51「あなたがたは、これらのことがみな分かったか。」弟子たちは、「分かりました」と言った。52そこで、イエスは言われた。「だから、天の国のことを学んだ学者は皆、自分の倉から新しいものと古いものを取り出す一家の主人に似ている。」

### 神から与えられる心を…

少なくない教会で、今日、同じ聖書日課の箇所が礼拝で朗読されていることでしょう。場所も異なり、歌う讃美歌も異なり、説教も祈りも異なる多くの教会が、聖書朗読を聞くという点では共通のものを用い、この日、同じ神の御言葉を聞くキリスト者の群れの中に連なるようにされています。百歩譲って異なる箇所を朗読しているとしても、同じ聖書が置かれ、ここから神の御言葉を聞くという営みが礼拝の中心に据えられているということは、わたしたち全キリスト教会を結び合わせる大切な要の一つになっています。

今日の旧約日課(列王記上3章)は、イスラエルの王ソロモンが即位してすぐ、神を礼拝したときの様子が描かれている箇所です。ソロモンは、父ダビデ王の後を継いで王になりました。聖書の中では知恵に満ちた王として知られるソロモンですが、それは生まれつき備わっていた能力ではなく、ソロモンが神に願い求め、神がお与えくださったものだった、という経緯を伝える箇所でもあります。

夢枕で「何事でも願うがよい」とお告げくださる神に、ソロモンは、「どうか、あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与えください」と願いました。そして、神は、ソロモンの願いをお喜びになられて、「あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える」と約束くださったのです。神が「心」を与えてくださるというのは、神がご自分の「心」を授けてくださるということでしょう。この「心」は、「心臓」を意味する語で、理性や意志の在処を指しています。神が、ご自分の「御心」を授けてくださったのです。

この夢枕の前後に描かれるソロモンの礼拝した場所は、象徴的です。はじめ、ソロモンは、聖なる高台で礼拝をしていました。しかし、神に「心を与える」と告げられた後、ソロモンは、「**主の契約の箱の前に立って**」礼拝したのです。「主の契約の箱」は、「十戒」の石の板が納められているという「神の箱」です。神が掟や戒めといった御言葉をお語りくださる方であることを象徴するものです。ソロモンは、神から「心」を授けていただく者として、「神の御言葉」の前に立って礼拝するように導かれたのでしょう。神の御言葉を通してこそ、神の御「心」をお与えいただくことができるからです。

## 天の国の弟子に…

今日の使徒書（I コリ 15 章）で、使徒パウロは、「死者はどんなふうに復活するか」ということを、言葉を尽くして説明しようとしています。繰り返し出てくるのが、「天上」と「地上」の対比です。復活というのは、地上の体が死んで天上の体を与えられることなのだ、ということです。それは、「最後のラッパが鳴ると共に」起こることだと、パウロは言うのですが、では、それまではわたしたちは相変わらず「地上」に結ばれているのかというと、そうではない、とも言います。洗礼によりキリストと結ばれた者は、キリストの死と復活にあずかって、すでに聖霊によって「天に属する者」とされ、「神の子」と呼ばれるのだと言うのです。すでに**神の国を受け継ぐ**約束を与えられた相続人なのだ、ということです（ローマ 6 章、8 章など）。

パウロがそのように言う「神の子」としてのキリスト者というのは、パウロが勝手に考えたキリスト者像というわけではないでしょう。パウロは、自分が使徒たちから受け継いだことを教え、実践しているということを、この手紙でも繰り返し述べていますが、ここで語っていることも同じはずです。おそらく、主イエスから「神の国」の教えを受け、「神の国」に入ることを目標に、主イエスに従う生き方を始めた弟子たち、使徒と呼ばれるようになった者たちの姿、またその使徒たちが教えた弟子のあり方を、パウロも学び、自ら実践し、そして教えるようになったはずです。主イエスが弟子たちや人々にお語りくださり、福音書に伝えられた「神の国」の教えを、パウロもまた、先輩の弟子たち、使徒たちから繰り返し聞かされたことでしょう。

福音書日課で聞き続けているマタイ福音書は、他の福音書が「神の国」と伝えることを「天の国」と言い換えて伝えている場合が少なくありません。はっきりした理由は分かりませんが、マタイ福音書では、山上の説教で神のことを繰り返し「あなたがたの天の父」とお呼びしていますから、「天の御父の国」という意味で、「神の国」を「天の国」と言い換えているのかもしれませんが。マタイ 13 章は、その「天の国」について主イエスがたとえを用いてお教えくださったことを伝える箇所です。

先主日も、直前の「毒麦のたとえ」からその「説明」までの箇所を、朗読で聞きました。その箇所を読み直してみると、「毒麦のたとえ」とそれに続く小さなたとえは、不特定多数の人々に対して語られていたのに対して、「毒麦のたとえの説明」から始まる箇所は、弟子たちだけにお語りになられた話となっていることがわかります。今日の箇所もそうです。主イエスは、一般向けの教えと弟子向けの教えを区別されることがあるのですが、「天の国」の教えは、そのような区別が必要な教えとして、初期の教会に語り伝えられたのです。

一般向けの教えで、主イエスは、「天の国」は、小さな種が人の知らぬうちに大きく育ち、実を結ぶようなものだたとえられ、神の御業の不思議、その豊かさをお語りになっていました。しかし、弟子たちには、同じ「天の国」について、もう一步踏み込んだことを理解するように、お教えになられたのです。

## 天の国は…

「**天の国は次のようにたとえられる**」と、今日の箇所だけで三度、繰り返されています。おそらく弟子たちは、これらの教えをバラバラにではなく、一連のものとして聞き、語り伝えたのでしょう。しかし、そうだとすると、この一連の教えをどのように受けとめるかは、一様ではないかもしれません。

たとえば、こう読むかもしれません。「天の国」とは、ここで繰り返されている「**持ち物をすっかり売り払って**」でも手に入れるべきもの。それほど、わたしたちが本当に願い求めるべきもの。だから、あなたも、それほど「天の国」をしっかりと願い求めなさい、という教えとして聞くかもしれません。

あるいは、こうです。「天の国」とは、網で集められた魚が、良いものと悪いものに選り分けられてしまう「最後の審判」のこと。だから、あなたも、「良い魚」として選んでもらえるように、努力しなさい。

そういう教えとして聞き取ることが、まったく間違っているとは思いません。そういう教訓的な受け取り方をすることも、たとえをお語りになられた主イエスは、お許しになられていると思います。けれども、マタイ福音書は、そのような教えとして伝えようとしたのではないと、わたしは思うのです。「神の国」の代わりに「天の国」を用いて伝えたマタイ福音書は、「天の国」の教えを通して、「天の父の御心が行われるとはどういうことか」を、主イエスの教えから聞き取ろうとしているのではないのでしょうか。つまり、こういうことです。

「**畑**」は「世界」のことだという説明が、「毒麦のたとえの説明」でありました。この世に、宝が隠されているのです。この世のあれやこれやで、天の父にとって貴い宝が、覆い隠されてしまっているのです。その宝を、天の父は、この世の中から見つけ出してくださる。そして、この世ごと買い取ってくださる、買い戻してくださる。あるいは、たった一つの**真珠**が、天の父の目には高価なもので、その一つを、どんな代価を払ってでも、買い取ってくださる、買い戻してくださる。それは、特定の選ばれた者だけではない。「**いろいろな魚**」＝「あらゆる種類のもの」を、天の父は、網ですくい上げるようにして、ご自分のもとにお集めになられる。網がいっぱいになるまで、そうなさる。

そのような天の父の御心を知る教えとして「天の国」のたとえを聞き取るならば、わたしたちは、先主日に聞いた「毒麦のたとえ」も同じように天の父の御心が示されていたことを思い出すでしょう。そして、同じように、このたとえで描かれる「世の終わり」の描写も、それは、良い者、悪い者の区別や判断は最後に神がなさることだから、わたしたちが先走って判断してはいけない、という弟子たちへの戒めであることに、気づかされるのです。

天の父の御心は、ご自分の宝（わたしたちのことです！）を取り戻されるために、この世界全体を買い取られることにあるのです。その御心を、主は弟子たちにお教えになられました。弟子たちに、そのような天の父の御心を受け、お与えになられたのです。弟子たちが、そしてわたしたちが、天の父の御心を我が心として、御心を行い、「天の国」を受け継ぐ者として生きようになるために。